

# 国際化推進室ニュースレター No9

◆ **国際化推進室のホームページをリニューアルしました。大学ホームページから「国際化推進室」にお進みください。**

## ◆ 江里学長の姉妹大学訪問

### (1) 韓国・慶南大学校

今年5月に本学を訪問された朴総長、盧図書館長との協議に基づき、9月1日から3日にかけて慶南大学校を訪問しました。新しく開館したばかりの「未来館」に納められた寺内文庫(李朝関係資料等)を視察しました。未来館は4階からなり、1階から3階には資料収納庫、学芸員室、資料や美術品の展示室等があり、4階は国際会議場です。1995年に当時の山口女子大学から資料が寄贈された時の様子を映像で見ることができ、デジタル資料の閲覧もできるようになっています。展示物は2回にわたってソウルでも公開され、特に2005年開催の「芸術の伝統展」には20万人の市民が観覧したそうです。市村図書館長、町田主査も随行し、両大学の有する図書や古文書、資料等を通じた交流についての協議がなされました。

朴総長の本学訪問、江里学長の慶南大学校訪問にあたっては、浅羽祐樹先生、林炫情先生、金恵媛先生にご尽力いただきました。



国際会議場にて

### (2) 北米・センター大学とビショップス大学

9月22日(月)から約1週間にわたり、両大学を訪問して、今後の交流についてラウシュ学長(センタ

ー大学)、ゴールドブルーム学長(ビショップス大学)と懇談を行いました。

センター大学は、最近の大学ランキング(フォーブス紙)で全米13位に輝きました。学生数1200名の小さな教養大学の快挙は、3年間にわたる全教職員をあげた中期計画作成の途上で生まれた意識改革と意識共有の賜物です。卒業するまでに全学生の85%が何らかの海外留学・研修体験を有しており、本学への交換留学もこういったプログラムの中に位置づけられています。リーガルマン学長補佐、サムハット副々学長(地域・国際プログラム担当)、ブビエ・フミエさん(着任したばかりの日本語教員)などの支援を受け、今後の交流を発展させていきたいと考えています。



センター大学の日本語クラス



学長懇談会を終えて

一方、ビショップス大学は、ケベック州にあって英国国教会の僧を育成するために創立した伝統を

もつ、学生数 1700 人の教養大学です。国際的教養力を身につけさせるため、世界中の数多くの大学と交流提携を結んでおり、ケベック州政府派遣の交換留学生として日本の首都圏の大学（慶応大学、早稲田大学、京都大学、関西外国語大学、京都教育大学）に派遣される機会もあります。このような中で本学を選んできてくれる学生がいるのは、長年支援を続けてくださったシーラン元学部長、日沢先生（日本語教育担当）、ミーセン先生（夏期海外語学研修担当者）や、本学側の北アメリカプロジェクトチーム（シャルコフ先生、ヒギンズ先生、安光先生）のお陰です。



英国国教会の名残をのこす正面玄関



学長懇談会を終えて

### ◆ 国際共同研究が進んでいます

本学の研究創作活動支援（国際共同研究枠）を受けた研究活動について中間報告をします。

#### （1）大学院健康福祉学研究科が韓国・慶北大学校およびアメリカ・ハワイ大学マノア校と学術交流

（大学院健康福祉学研究科長 長坂祐二）

健康福祉学研究科では「アクティブ・エイジングから見た百歳以上老人の健康福祉」をテーマとして、

大学院担当教員を中心に、学内の教員を加えた共同研究を始めています。この研究を国際的な共同研究とするために、7月21～24日には韓国・慶北大学校保健大学院を、9月16～21日には、アメリカ・ハワイ大学マノア校を訪問し、日米韓による共同研究の申し入れを行いました。

慶北大学校へは、本学の教員7人と大学院生5人が訪問しました。共同研究に関するセミナーでは、小川全夫教授が「アクティブ・エイジングから見た百歳以上老人の健康福祉」研究の概要を説明し、大学院博士後期課程に在籍する田口誠也さんと松永智子さんが「認知症の人のためのケアマネジメントセンター方式」の一部を活用した百歳以上老人調査の構想を提案しました。

ハワイ大学マノア校へは、本学の教員4人が訪問し、共同研究のアメリカ側代表であるキャサリン・ブラウン教授を中心とするスタッフと協議した結果、アクティブ・エイジングは、今まさに国際的に注目されているテーマであることから、日米韓共同で取り組むにふさわしい課題であることを確認しました。

その他、滞在中、韓国では、在宅一人暮らし生活保護老人に対する生活支援センター「老人の電話」と保健診療所でのコミュニティ・ヘルス・プラクティショナーの活動について、ハワイでは、「100歳老人のターミナルケア」をテーマとする調査の一環として、セント・フランシス・ホスピスの施設を訪問し、死別のケアの現状について、それぞれ視察を行いました。

今後は、調査対象地の百歳以上老人に関する基礎調査と面接調査に着手すると同時に、今年度中に本学において国際フォーラムの開催し、そこでの議論を踏まえて日米韓による共同研究調査を本格的に開始する予定です。



慶北大学校にて



ハワイ・コンベンション・センターにて

## (2) 新学術領域に対する学際的な国際的共同研究モデルの開発:「韓国の格差社会の政治争点化」を事例に

(国際文化学部講師 浅羽 祐樹)

本研究は、平成 20 年度から文部科学省が新学術領域研究(研究領域提案型)と新学術領域研究(研究課題提案型)に対する科学研究費補助金の配分を開始したことを受けて、その獲得に向けて態勢を整えるべくして企画された。韓国における格差問題の政治争点化という本研究のテーマは、政治学や社会学といった個別ディシプリンが単独で扱えるものではなく、本来的に学際的かつ国際的な共同研究が必要とされる新学術領域研究である。申請時には、同一テーマで応募した学外の競争的資金の結果を待っている状況だったので、本研究はマッチング・ファンドとして期待された。ただ、残念ながら、採択には到らなかったため、規模を大幅に縮小して、現実的な範囲内で研究を遂行せざるを得なかった。

しかし、その中でも、すでに次のような成果を挙げることができた。第 1 に、「統合と分裂の韓国政治:第 17 代大統領選挙(2007 年 12 月)に対する分析」を朴賛郁教授(ソウル大学校政治学科)と共著で執筆し、日本選挙学会編『選挙研究』24 巻 2 号(近刊)に掲載される予定である。第 2 に、長谷部恭男・杉田敦『これが憲法だ!』(朝日新書、2006 年)を金一栄教授(成均館大学校政治外交学科)とともに韓国語に翻訳し、『憲法論争:民主主義対立憲主義(仮題)』としてノンヒョンから出版予定である。これらは両方とも国外の研究者とのコラボレーションの成果である。第 3 に、「アジア市民社会研究」ワークショップ(2008 年 11 月 9 日)や韓国選挙学会年次大会(2008 年 11 月 14 日)などに積極的に参加し、今後、同様の競争的資金に再び応募する可能性を念頭に、

国内外の研究者とのネットワーキングやシーズ・ニーズの把握を行った。

国際共同研究の推進は、「共同研究の積極的展開」や「国際化の推進」(江里健輔理事長による「理事長(学長)予定者に指名されて」より引用)に合致し、「大学の本分である『教育・研究』のレベルを高めること」で、地域社会はもちろん、広く国内外に「情報発信できる大学」の一翼を担うものと思われる。「種を蒔かないところに実はならない」との心情で、今後も種蒔きをつづけていきたい。

## (3) 民族の伝統文化を取り入れたファッション創作の教育研究プログラムの開発

(国際文化学部 松尾量子、水谷由美子)

青島大学との相互交流事業として展開してきたフォーラムは、本学で 2 回、青島大学で 2 回開催されました。本年 6 月に開催された青島フォーラムには、水谷と田村教授が派遣され、青島大学のファッションショーに 4 名の学生(片山涼子/大学院国際文化学研究科 2 年、石橋昌子、田村未奈美、萩元由佳/環境デザイン学科 4 年)が参加しました。これを契機にファッション分野における国際共同研究が提案されました。

研究では、カリキュラムや学生指導のあり方について情報を交換し、将来的には文化創造学科の教育に生かしていきたいと考えています。情報交換と研究協議のために青島大学から研究者 2 名が来学すると同時に、12 月 21 日に開催されるクリスマス・ファッションショーに青島大学学生 2 名が作品を出展する予定です。



青島大学でのファッションの様子

## ◆「国際化加速GP」始動しました

山口県立大学は地方小規模大学のメリットを活かした、地道で丁寧な組織的教育力が高く評価され、様々なGPに採択されています。その中の1つに今年度採択された「国際化加速GP」があります。

山口にはたくさんの優れた文化財が数多く残されています。伝統を過去にとどめず、「生きたもの」として取り扱う欧米の手法を取り入れた教育方法や教育教材を開発する目的で、海外の先進大学に学ぶというのが「国際化加速GP（先進大学教育視察）」です。歴史や文化を五感で読み取るために、学生を現場に連れ出すLOL（Learn on Location、現地で学ぶ）の手法を使います。

提案しているのは「やまぐちスタディーズ」と称する一連のプログラムで、欧米からの留学生や英語で山口の文化を学びたいという日本人学生を対象としています。現在、「やまぐちの文学LOL（中原中也や嘉村礒多等）」と「クラフトとデザインLOL（大内塗・デニム・竹・萩焼）」を施行中。事前授業で作品について英語で読み、討論し、理解を深めます。次に外部講師の先生と一緒に、中也の詩の石碑のある長門峡や、礒多の小説『神前結婚』の舞台である仁保へ実際に出向くなどして、現地体験を通して作品に触れます。事後学習では英語でエッセイを書いたり、プレゼンテーションをしたりします。

日本人学生には多様な地域文化について英語で語り発信できる力を育成し、留学生には日本のさまざまな地域文化について学んだことを英語で発信してもらいます。山口のことを国内外の人々にもっと知ってもらおう機会を創出します。



カナダやスペイン、アメリカ等からの交換留学生



和紙について学び、自分で作る実地体験

## ◆ 留学生バスツアーを企画しました

11月24日（月・祝）、外国人留学生日帰りバスツアーを行いました。



もみじ饅頭手作り体験



集合写真

行き先はユネスコの世界文化遺産に指定された厳島神社に代表される安芸の宮島です。学生支援部のY&I事業（日本人学生と留学生の交流会を企画）と連携したため、日本人学生16名、留学生20名、教職員4名が参加する賑やかな研修旅行となり

ました。生憎の雨でしたが、紅葉した山が霧に囲まれ、幻想的な雰囲気醸し出していました。

留学生と日本人学生がペアを組み、もみじ饅頭手作り体験もしました。普段は買うだけのもみじ饅頭ですが、今回は一からの手作り！巨大な泡立て器とボールで 240 個分のカステラ生地を一生懸命に交代しながら混ぜて作りました。焼き色がうまく付かなかったり、形が少し歪だったりもしましたが、丹精こめて作った手作りもみじ饅頭の味は格別です。留学生と日本人学生がお互いの言葉を教えあったり、文化の違いについて話したりしながら、交流が深まりました。

### ◆ 留学生の地域派遣

地域共生センターと連携し、本学の国際交流活動の成果を地域に還元するため、小中学校訪問を行い、国際理解教育講座として利用していただいています。訪問のあとには、子ども達からの可愛いお礼の手紙が届いています。

#### ① 山口市立大内南小学校 (10月10日：金)

カナダ、アメリカ、中国、韓国の文化を知るグループに分かれ、写真を見たり、クイズに答えたり、歌やゲームなど様々な活動が展開されました。小学3年生144名の子どもたちが披露してくれた「世界の子どもたち」の歌声に感動しました。

#### ② 山口市立湯田小学校 (10月15日：水)

4年生115名がグループに分かれ、体育館の各国コーナーをインタビューをして回るという授業が組まれていました。本学学生（アメリカ、中国）も2つのコーナーを担当し、あらかじめ届いていた子どもたちの質問に丁寧に答えていきました。

#### ③ 柳井市立柳井西中学校 (10月17日：金)

中学3年生を対象に、アメリカ、カナダ、スペインの文化について紹介しました。留学生の用意したクイズや、中学生の準備したゲームに夢中になり、中学生53名の一人ひとりの顔が見える印象的な国際交流となりました。最後に披露してくれたコーラスに心も体も震えるような感動を受け、留学生からは「すばらしい」の連発。

#### ④ 山口市立名田島小学校 (10月29日：水)

アメリカ、スペイン、フィンランドの4名の学生が訪問し、3、4年生の18名にそれぞれの国の様子を写真やビデオを交えて紹介しました。その後、一

緒に給食を食べながら話して楽しい時間を過ごしました。午後は、6年生4名と「はないちもんめ」をしました。恥ずかしがってなかなか話ができなかった児童たちも、一緒に手をつないで遊ぶうちに、国際交流を肌で感じる事ができたようでした。

#### ⑤ 萩市立明木小学校 (11月1日：土)

スペインの学生1名が、小学生や保護者の方々に混じって餅つき大会に参加しました。最初は「腰が入っちゃらんが〜！」と言われながらも、地域の方々から身振り手振りで教えていただくうちに、しばらくすると慣れて、形になってきました。1年生から6年生まで全ての学年を回り、餅をついたり丸めたり、全校生徒約50名という子どもたちと一緒に校庭を走り回ったりしました。閉会式で、「今日が僕にとって小学校の思い出の中で一番楽しかったです」と感想を述べてくれました。

#### ⑥ 山口市立大殿小学校 (11月17日：月)

校長をはじめとする22名の先生方に、フィンランドからの交換留学生が、教育世界一といわれるフィンランドの学校について説明をしました。スライドに映し出された教育現場の様子を見た後、フィンランド・メソッドやカルタ形式の授業について等、先生方より多くの質問がありました。先生方は、今後プロジェクトを組んで、フィンランドの小学校教育の研究に取り組まれるとのことでした。

#### ⑦ 岩国市立川上小学校 (11月21日：金)

中国、アメリカ、カナダの学生が、全校生徒60名足らずの山間の小さな小学校を訪問しました。5、6年生は英語で自己紹介をして、盛んな拍手を受けました。文化紹介を真剣に聞き入り、その後、日本の遊びを教えてくださいました。いすとりゲームは6年生とアメリカ人の対決に歓声があがり、1、2年生を交えた「かごめかごめ」を一緒に歌い、最後に3、4年生も入れて「花いちもんめ」で大騒ぎになりました。お別れの言葉も英語で行ってくれ、心に残る訪問となりました。

今後は、周南市立富田東小学校、山口市立宮野小学校、防府市立華城小学校、美祢市立大嶺小学校、山口市立良城小学校等を訪問する予定です。



山口市立大内南小学校



萩市立明木小学校



山口市立湯田小学校



山口市立大殿小学校



柳井市立柳井西中学校



岩国市立川上小学校



山口市立名田島小学校

<p>山口県立大学国際化推進室          Tel(内線):3413          email:kokusaika@yamaguchi-pu.ac.jp</p>
---